髭

斎藤佑祐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
髭

【Ｎコード】
Ｎ２４８２ＢＡ

【作者名】
斎藤佑祐

【あらすじ】
友人が会社を退職した。

友人が会社を退職した。
退職後に酒を飲んだ際、理由を訊ねたら「髭を伸ばしたくなった」とのことだった。

「髭？」

「そう髭」と言いながら友人の鼻の下と顎を右手で触った。そこには、確かに前にはなかった髭があった。彫りの深い顔立ちをしているため、髭はとても自然で良く似合っていた。

「マジで？」

「マジ。ほら俺って営業だったろ。身だしなみを気にしないといけなかったから、髭は剃っててさ。けどある日、テレビを見てたら急に髭が伸ばしたくなってな。これは会社を辞めようと思って、次の日、上司に退職の話をした」

「それで会社には『髭を伸ばしたいから会社を辞めます』って言ったのか？」

「まさか。流石にそこまで大胆じゃない。会社にはちゃんと別の理由を言ったよ」

「別の理由？」

「ああ、他にキャリアを積みたくなりましたってな」

「キャリアね……、便利な言葉だ」

「まったくな」

その後、私自身も転職を考えているのだが、なかなか踏ん切りがつかないことを話すと、友人は笑いながら言った。

「俺が言えた義理じゃないが、後悔だけはするなよ。もし会社に遠慮があって辞めれないのなら、こう思えばいい『自分の代わりならどこにでもいる』と」

その後も二人で飲み続けて店を出た。私は明日も仕事があるため帰宅することにしたが、友人は別の店に顔を出す予定らしく、「じゃあな」と言って夜の街に消えていった。私は友人の背中を見送り、そして通りに出てタクシーを停めた。アルコールのせいか、退職の相談ができたためか、幾分心が軽くなった気がした。運転手に行き先を告げ、ふとバックミラーに映った自分と目が合った。ミラーに映った顔は朝見たときと同じく貧相な顔だった。顎に手をやると、少し伸びた髭がさらりと触れた。髭には伸ばして似合うものと似合わないものがある。自分が伸ばしても友人のように洒落たものにはならないだろうと思った。

「キャリアね……」

25歳、独身。いまの自分に守るべきもの、後悔することもない。寧ろ、何もないと言っていい。

「髭か……」

独り言を呟く私を不審に思ったのか運転手がミラー越しに見てき

た。鬱陶しかったが、私は笑顔をつくり運転手に向けた。
タクシーは繁華街を抜けていく。きらびやかなネオンが遠くなっていく中、私は上司に告げる退職理由を考えながら目を瞑った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2482ba/

髭

2012年1月6日11時48分発行